

関西 2 府 4 県 GRP の早期推計 No.5

2025 年 5 月 28 日

小川 亮 (APIR リサーチャー)
稲田 義久 (APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)
吉田 茂一 (APIR 研究推進部)

トピックス：

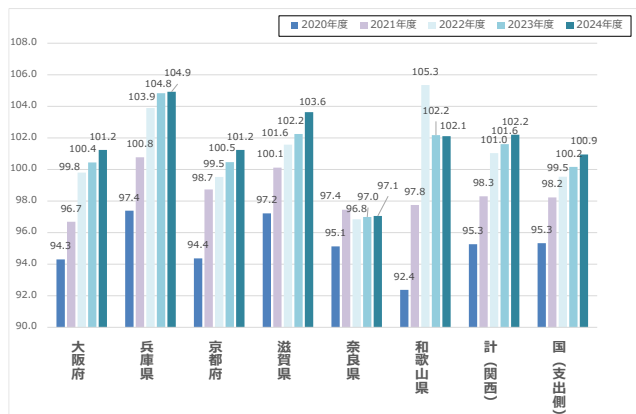
関西各府県の GRP 成長動態¹⁾：

2023-24 年度早期推計値

【コロナ禍からの回復過程】

2022 年度の関西の府県別域内総生産(GRP)が奈良県を除いて公表された。図表 1 は 2018 年度を 100 とした各府県の実質 GRP の推移を示したものである²⁾。関西各府県の 22 年度の実質 GRP をみれば、関西(101.0)は国全体(99.5)よりも先にコロナ禍前の水準を回復した。

図表 1 各府県の GRP 推移(2018 年度=100)



2022 年度を府県別にみれば、和歌山県(105.3)、兵庫県(103.9)や滋賀県(101.6)はコロナ禍前の水準を上回り、大阪府(99.8)や京都府(99.5)もほぼ同水準を回復したものの、

奈良県(早期推計：96.8)は依然下回る水準となった。

【今回の予測の要約】

2023 年度の予測値をみれば、全国がコロナ禍前の水準を 0.2%上回ったのに対して、関西は 1.6%と全国を上回る回復が予測される。府県別で 18 年度を上回ったのは兵庫県(104.8)、滋賀県(102.2)、和歌山県(102.2)、京都府(100.5)、大阪府(100.4)であった一方、奈良県(97.0)は依然として下回っている。

さらに 2024 年度の予測値をみると、関西(102.2)は国全体(100.9)より大きな回復が予測される。兵庫県(104.9)、滋賀県(103.6)、京都府(101.2)、大阪府(101.2)は前年から増加を維持するが和歌山県(102.1)は前年から微減。一方で奈良県(97.1)は依然コロナ禍前の水準には至らず、低成長が予測される。

【実質成長率の推移】

実質成長率をみれば、2020 年度は関西、全国ともに前年比-3.9%と大きく落ち込んだ。翌 21 年度には関西(同+3.2%)と全国(同+3.0%)は同様に回復したが、22 年度は前年から減速したものの関西(同+2.8%)は全国(同+1.3%)に比して引き続き高い成長率となった。また 23、24 年度の成長率は関西でいずれも+0.6%と、全国とほぼ同様の伸びが予測される。

*本レポートは、超短期予測の手法に基づき、関西各府県の GRP の早期推計を行うものである。予測更新頻度は半期に 1 度に行われる。
詳細な手法については No.1 の Appendix を参照のこと。

¹⁾ 関西 2 府 4 県の GRP 生産サイド予測では、各経済月次指標から主成分を計算し、それと GRP の回帰式から予測系列の作成を行ってきた。しかし、これまでの府県別 GRP の実績系列と予測系列の当てはまりの良さをみれば、標本期間の前半では当てはまりが良いものの、足下、特にここ 5 年の当てはまりが悪くなる府県が散見された。そこで今回の予測から試験的に、加

重最小二乗法を用いて兵庫県と和歌山県について足下の当てはまりの良さを改善する手法を試行し、予測精度の向上を目指した。

²⁾ これまで 2019 年度を 100 とする指数を発表してきたが、コロナ禍は 2019 年度の第 4 四半期に含まれるため、今回よりその影響を排除した 18 年度の値と比較することとした。

予測要約表

	大阪府	兵庫県	京都府	滋賀県	奈良県	和歌山県	計(関西)	国(支出側)
モデルの推計期間	2006-22	2006-22	2006-22	2006-22	2006-21	2006-22		
●実質GRP(10億円)								
FY2019(実績)	40,731	22,322	10,705	7,009	3,788	3,695	88,249	550,117
FY2020(実績)	39,077	21,622	10,195	6,820	3,624	3,440	84,778	528,630
FY2021(実績)	40,067	22,374	10,667	7,024	3,712	3,640	87,484	544,718
FY2022(実績)奈良は早期推計	41,359	23,067	10,752	7,126	3,689	3,923	89,917	551,983
FY2023(早期推計)	41,624	23,275	10,854	7,174	3,695	3,805	90,426	555,440
FY2024(早期推計)	41,953	23,295	10,938	7,271	3,697	3,802	90,956	559,789
●実質GRP指数(2018年度=100)								
FY2019(実績)	98.3	100.5	99.1	99.9	99.5	99.2	99.2	99.2
FY2020(実績)	94.3	97.4	94.4	97.2	95.1	92.4	95.3	95.3
FY2021(実績)	96.7	100.8	98.7	100.1	97.4	97.8	98.3	98.2
FY2022(実績)奈良は早期推計	99.8	103.9	99.5	101.6	96.8	105.3	101.0	99.5
FY2023(早期推計)	100.4	104.8	100.5	102.2	97.0	102.2	101.6	100.2
FY2024(早期推計)	101.2	104.9	101.2	103.6	97.1	102.1	102.2	100.9
●実質成長率(%)								
FY2020(実績)	-4.1	-3.1	-4.8	-2.7	-4.4	-6.9	-3.9	-3.9
FY2021(実績)	2.5	3.5	4.6	3.0	2.4	5.8	3.2	3.0
FY2022(実績)奈良は早期推計	3.2	3.1	0.8	1.5	-0.6	7.8	2.8	1.3
FY2023(早期推計)	0.6	0.9	0.9	0.7	0.1	-3.0	0.6	0.6
FY2024(早期推計)	0.8	0.1	0.8	1.4	0.1	-0.1	0.6	0.8
●実質成長率(%)：寄与度ベース								
FY2020(実績)	-1.9	-0.8	-0.6	-0.2	-0.2	-0.3	-3.9	
FY2021(実績)	1.2	0.9	0.6	0.2	0.1	0.2	3.2	
FY2022(実績)奈良は早期推計	1.5	0.8	0.1	0.1	0.0	0.3	2.8	
FY2023(早期推計)	0.3	0.2	0.1	0.1	0.0	-0.1	0.6	
FY2024(早期推計)	0.4	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.6	
●モデルの適合度								
自由度修正済決定係数	0.75	-	0.73	0.82	0.86	-	-	
GRP水準のMAPE(%)	1.11	1.78	1.28	3.48	0.62	2.22	-	
GRP成長のMAPE(%)	1.60	2.38	1.71	2.24	0.91	3.02	-	

注1) MAPEはMean Absolute Percentage Error（平均絶対誤差率）の略。

注2) 実質GRPは生産側の連鎖価格表示。

注3) 日本経済の実質成長率（支出側）の出所は内閣府。

注4) 新基準は2011年度以降が2015年基準値、2010年度以前は旧基準値を新基準値に接続。

注5) 兵庫県と和歌山県では、サンプル期間のうち直近のデータの当てはまりを相対的に重視する加重最小二乗法を採用し、ウェイトは過去にさかのぼるほど指数関数的に減衰するよう設定している。

関西各府県の予測

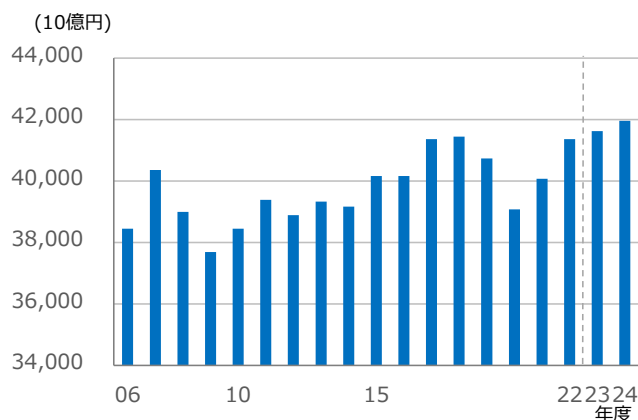
(1) 関西

関西 2 府 4 県の実質 GRP(生産側)の合計でみた実質成長率は、早期推計によると 2023 年度が+0.6%、24 年度が+0.6%になる。コロナ禍の経済不況からの回復が一服したのちに、23 年度・24 年度は 1 %未満のプラス成長が続いたと予想される。

(2) 大阪府

大阪府の実質 GRP は、2023 年度が 41.62 兆円、24 年度は 41.95 兆円となる。実質成長率でみると、23 年度が+0.6%、24 年度が+0.8%となる。コロナ禍からの回復・成長が 24 年度まで続くと予測される。

図表 2 大阪府の実質 GRP



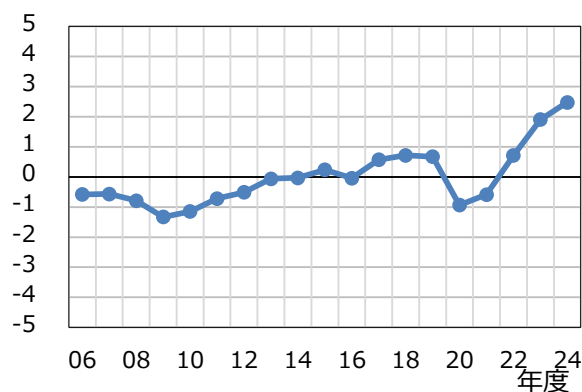
注)2022 年度までは実績値、23 年度と 24 年度は APIR 早期推計値。

予測モデルで採用している大阪府の一次統計のうち、消費、企業投資の動きを表す 2 つの統計の特徴を確かめる。まずは、大型小売店販売額(従業者一人あたり)である。図表 3 をみると、コロナ禍前の水準(2019 年度)に対して 22 年度に回復し、23 年度に凌駕し、24 年度に続伸すると予想される。

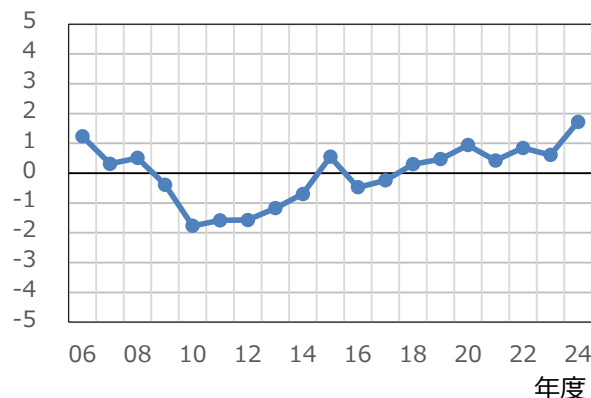
次に企業投資である。図表 4 の建築着工工事費予定

額：会社をみると、ここ 10 年間に於いておおむね増加トレンドにあり、24 年度については大きな増加がみられる。

図表 3 大阪府の大型小売店販売額(対従業者数)³⁾



図表 4 大阪府の建築着工工事費予定額：会社¹⁾



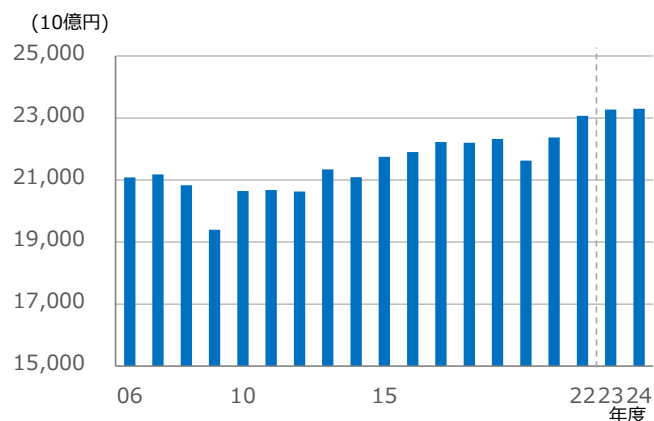
(3) 兵庫県

兵庫県の実質 GRP は、2023 年度が 23.28 兆円、24 年度が 23.30 兆円となる。実質成長率は 23 年度が+0.9%、24 年度が+0.1%となる。23 年度は約 1 %のプラス成長となるが、24 年度は横ばいと予測される。

³⁾ 各月次指標の動きを比較可能とするために、月次値を年度平均値にした後に標準化(平均値を 0、標準偏差を 1 に変換)している。な

お、2024 年度におけるデータ公表前の月次値は VAR モデルによる予測値を使用した。

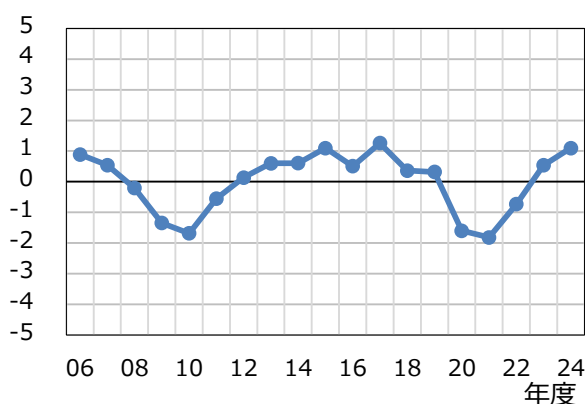
図表 5 兵庫県の実質 GRP



注)2022 年度までは実績値、23 年度と 24 年度は APIR 早期推計値。

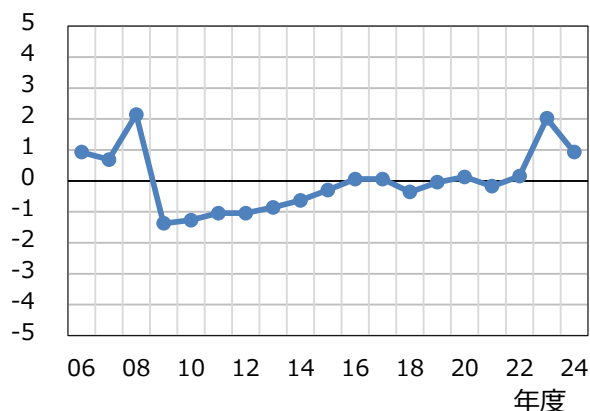
兵庫県の一次統計でも消費と企業投資に着目する。図表 6 は大型小売店販売額(従業者一人あたり)である。2020 年度と 21 年度の落ち込みから回復傾向にあり、23 年度にコロナ禍前の水準を超え、24 年度も続伸した。

図表 6 兵庫県の大型小売店販売額(対従業者数)¹⁾



次に企業投資である。図表 7 の建築着工工事費予定額：会社をみると、2022 年度までは横ばいの傾向を示していたが 23 年度に大きく増加した。24 年度は 23 年度より幾分減速したものの増加傾向を維持している。

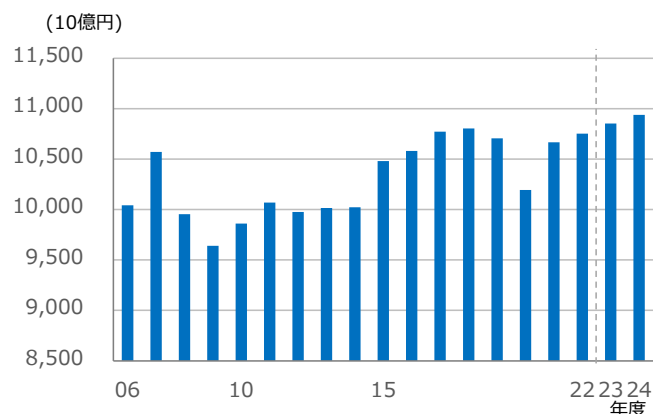
図表 7 兵庫県の建築着工工事費予定額：会社¹⁾



(4) 京都府

京都府の実質 GRP は、2023 年度が 10.85 兆円、24 年度が 10.94 兆円となる。実質成長率は 23 年度が +0.9%、24 年度が +0.8%となる。23 年度、24 年度と連続してプラス成長が続くと予測される。

図表 8 京都府の実質 GRP

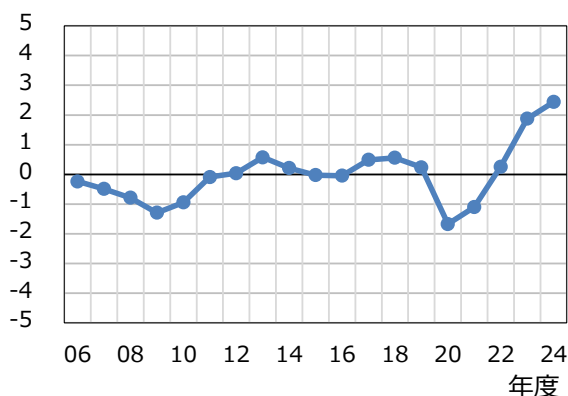


注)2022 年度までは実績値、23 年度と 24 年度は APIR 早期推計値。

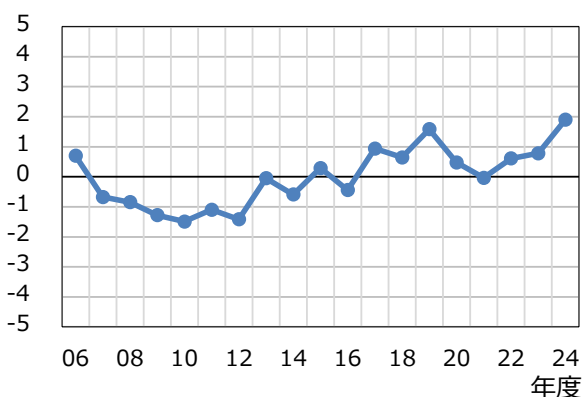
京都府の一次統計でも消費と企業投資に着目する。図表 9 は大型小売店販売額(従業者一人あたり)であり、コロナ禍後では大阪府と同様の動きがみられる。

次に企業投資の動きである。図表 10 の建築着工工事費予定額：会社をみると、2021 年度に落ち込みで底を打った後、24 年度まで回復傾向が続いた。

図表 9 京都府の大型小売店販売額(対従業者数)¹⁾



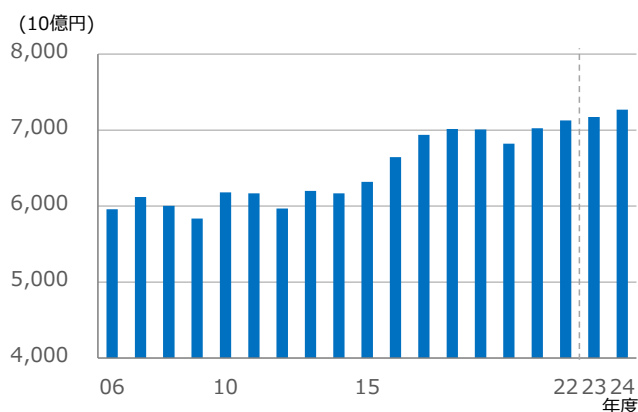
図表 10 京都府の建築着工工事費予定額：会社¹⁾



(5) 滋賀県

滋賀県の実質 GRP は、2023 年度が 7.17 兆円、24 年度が 7.27 兆円となる。実質成長率は 23 年度が +0.7%、24 年度が +1.4%となる。23 年度以降、プラス成長が続くと予測される。

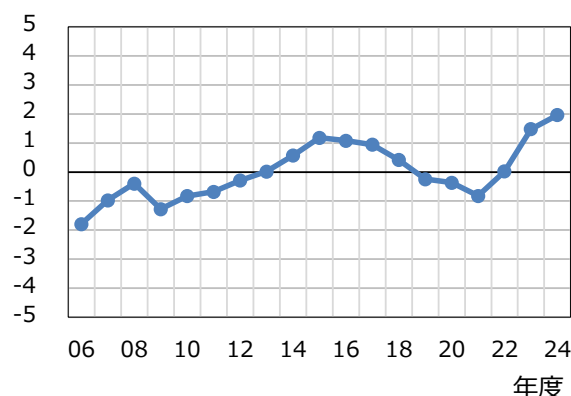
図表 11 滋賀県の実質 GRP



注)2022 年度までは実績値、23 年度と 24 年度は APIR 早期推計値。

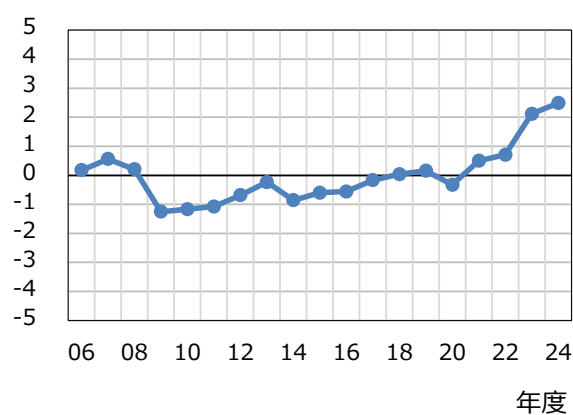
滋賀県の一次統計でも、消費と企業投資の動きを確認する。まず、図表 12 は大型小売店販売額(従業者一人あたり)である。2015 年度から低下が続いたが、22 年度から回復傾向に転じている。23 年度には 15 年度を超える水準になるほどの大きな伸びとなった。24 年度も増加を維持した。

図表 12 滋賀県の大型小売店販売額(対従業者数)¹⁾



次に企業投資である。図表 13 の建築着工工事費予定額：会社をみると、ここ 10 年間においておおむねプラス成長の傾向であったが、特に 23 年度に大きな伸びを示し、24 年度も続伸した。

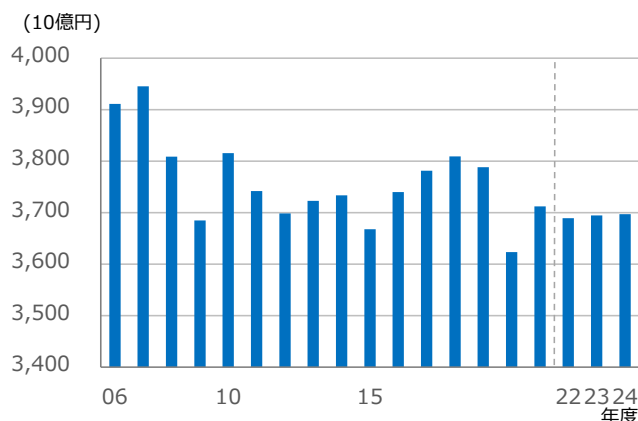
図表 13 滋賀県の建築着工工事費予定額：会社¹⁾



(6) 奈良県

奈良県の実質 GRP は 2022 年度が 3.69 兆円、23 年度が 3.70 兆円、24 年度が 3.70 兆円となる。実質成長率は、22 年度が -0.6%、23 年度が +0.1%、24 年度が +0.1%となる。22 年度以降はほぼ横ばいのトレンドと予想される

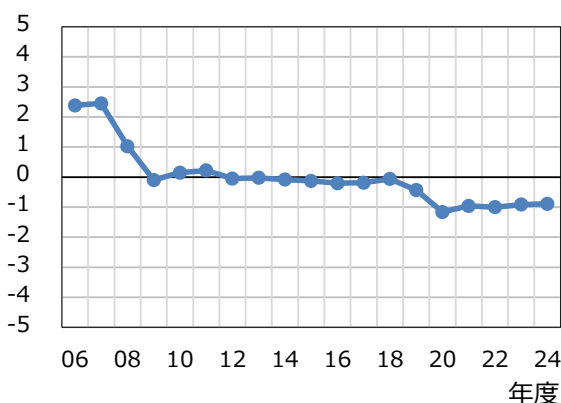
図表 14 奈良県の実質 GRP



注)2021 年度までは実績値、22 年度と 23 年度と 24 年度は APIR 早期推計値。

奈良県の一次統計では、生産に着目する。図表 15 は、製造工業生産指数であり、2006 年度から 21 年度にかけて奈良県 GRP との相関係数が 0.85 になる。コロナ・ショックにより 20 年度に落ち込んだ後、21 年度から 23 年度にかけてほぼ横ばい傾向にあった。24 年度もそれが続く予測される。

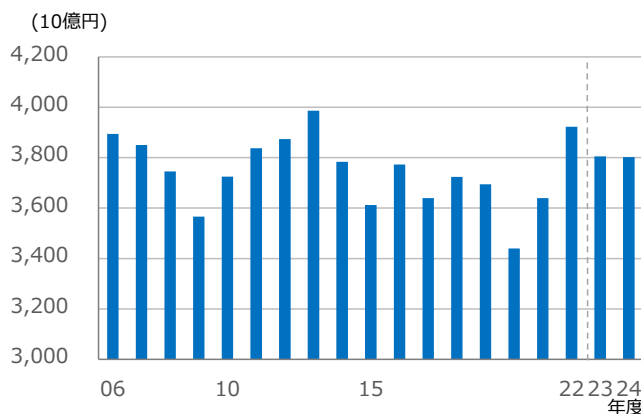
図表 15 奈良県の製造工業生産指数¹⁾



(7) 和歌山県

和歌山県の実質 GRP は、2023 年度が 3.81 兆円、24 年度が 3.80 兆円となる。実質成長率は 23 年度が-3.0%、24 年度が-0.1%となる。23 年度は落ち込み、24 年度は横ばいになったと予想される。

図表 16 和歌山県の実質 GRP

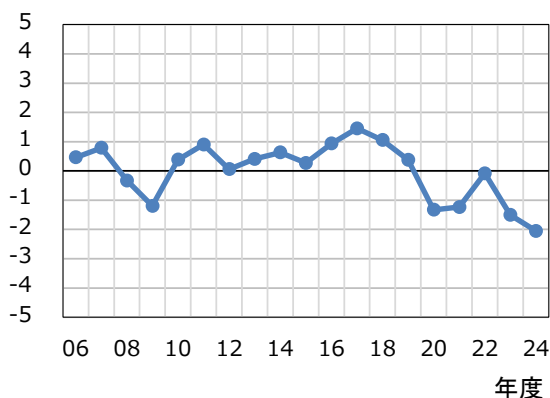


注)2022 年度までは実績値、23 年度と 24 年度は APIR 早期推計値。

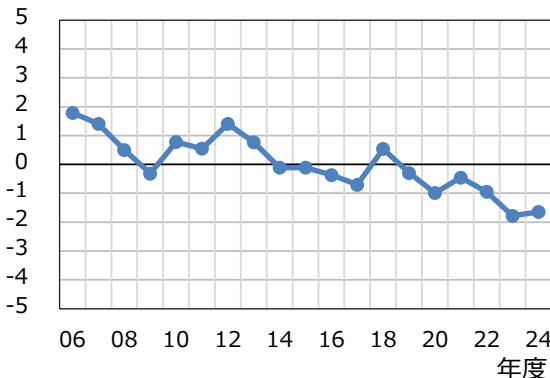
和歌山県の一次統計では、生産と投資の動きを確認する。図表 17 は、製造工業生産指数になる。2020 年度・21 年度のコロナ禍の落ち込みから、22 年度に大きく回復したが、23 年度に再び落ち込み、24 年度もさらに底割れをした。

図表 18 は、建築着工床面積である。21 年度から低下傾向で続いたが、24 年度はやや増加した。

図表 17 和歌山県の製造工業生産指数¹⁾



図表 18 和歌山県の建築着工床面積¹⁾



(8) 府県別のまとめ

最後に、2021-24 年度における関西経済の各年度成長率に対する府県別寄与度を図表 19 に示す。

2021 年度の GRP（実績）はコロナ・ショックからの反転により関西全体で+3.2%のプラス成長であり、全府県がプラスに寄与している。特に大阪府(+1.2%pt)、兵庫県(+0.9%pt)、京都府(+0.6%pt)のプラスの寄与度は大きい。22 年度も+2.8%のプラス成長であり、大阪府・兵庫県の寄与が大きい。23 年度、24 年度は 1% 未満であるがプラス成長が続くと予想される。

図表 19 関西の実質成長率と府県別寄与度

